

# 水田たより 9月号

令和3年9月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

## 水稲カメムシ被害について

令和3年度病害虫発生予報第5号（三重県病害虫防除所）より、斑点米カメムシ類の発生量は平年と比べて**やや多い**予想であると発表がありました。

晩生品種（業務用米・飼料用米など）においても被害が予想されますので、周辺圃場へのドリフトや収穫前日数に注意しながら薬剤散布をおこなってください。

詳細は「水田たより令和3年8月号」をご参考ください。

## 水稲収穫後のほ場管理

### ■ 雑草対策

水稲収穫後は発生した雑草の対策を行い、翌年の発生を減らしましょう。

| 雑草の種類  | 雑草の例               | 収穫後の対策の <b>考え方</b>             |
|--------|--------------------|--------------------------------|
| 一年生雑草  | ヒエ、コナギ、クサネム、ヒレタゴボウ | すぐに耕起せず、種子を低温や乾燥にさらす。          |
| 多年生雑草  | オモダカ、コウキヤガラ、ホタルイ   | 収穫後に耕起し、塊茎を低温や乾燥にさらす。          |
| ほふく性雑草 | キシウスズメノヒエ、アシカキ     | 収穫後すぐに茎葉処理剤（ラウンドアップ等）を散布して枯らす。 |

### 〈ヒレタゴボウ対策〉

本年に発生がみられた圃場では翌年も発生し、その数も大幅に増加します。1株で非常に多くの種子（千～万単位とも）を生産し、初期の除草剤では防除しきれないため、中干し前後に後期除草剤の散布を徹底することが必須です。本年に発生が見られた圃場を記録し、翌年の防除に努めましょう。



ヒレタゴボウ

## 大豆の栽培管理

### ■ カメムシ防除

三重県病害虫防除所によると本年の大豆においても吸実性カメムシの発生が多くなると見込まれています。薬剤散布による防除を徹底しましょう。

薬剤散布はカメムシが吸汁している時間帯（朝・夕方）や曇天日が効果的です。また、降雨により残効が低下するため、薬剤が乾く前に雨が予想される場合は散布を延期してください。

残効は2週間程度です。そのため、7月下旬播きでの薬剤散布は、9月中旬とその2週間後である10月上旬の2回で行うのが効果的です。

| 薬剤名       | 希釈倍数   | 使用液量         | 使用時期    |
|-----------|--------|--------------|---------|
| キラップフロアブル | 2,000倍 | 100～300L/10a | 収穫7日前まで |
| スタークル液剤10 | 1,000倍 |              |         |

※農薬の使用にあたっては、ラベルに記載された内容を十分に確認してください。

（裏面へ）

## 令和3年産麦の状況及び令和4年産麦のほ場準備

### ■ 令和3年産麦について

4月、5月の降水量の多さや日照不足のため、小粒傾向であり、収量が低くなっています。(右表参考)

令和4年産小麦では、播種前にできる以下の対策をおこない、小麦を充実させ収量や品質の向上を目指しましょう。

小麦単収 (kg/10a)

| 品種    | 地域       | R3年産※ | R2年産 |
|-------|----------|-------|------|
| さとのそら | 桑名市・木曾岬町 | 286   | 342  |
| あやひかり | いなべ市・東員町 | 282   | 321  |
|       | 三重県全体    | 308   | 359  |

※R3年産は速報値

### ■ 令和4年産小麦の排水対策

麦類は湿害に弱く、特に出穂期以降の長雨などで土壌の滞水時間が長くなると、収量や品質の低下につながります。

圃場内に明渠を設置し、周囲溝と連結させて排水対策をおこないましょう。

また、排水対策の一例として、いなべ地区にて播種前耕うん①スタブルカルチ区(深耕)、②ロータリー区(慣行)をおこない、収量の違いなどを調査しました。

右表から、①スタブルカルチ区では②ロータリー区と比べて1俵近く収獲量が増収し、タンパク含量も確保できているといえます。

|                 | 精麦重<br>(kg/10a) | 千粒重<br>(g) | タンパク含量<br>(%) |
|-----------------|-----------------|------------|---------------|
| スタブルカルチ区        | 655             | 36.5       | 9.3           |
| ロータリー区<br>(慣行区) | 590             | 35.8       | 8.7           |

※R3年産小麦による坪刈り試験結果

### ■ 麦作前の圃場管理

小麦連作圃場で、年々収量が下がってきている、もしくは酸性条件下で優占する雑草(スギナやタデ類)が増えてきている、ということはありませんか?

これらがみられる圃場では、土壌pHが低下(酸性化)している可能性が高く、小麦の初期生育に影響を及ぼします。

〈土壌pHが小麦の初期生育に及ぼす影響(播種後84日)〉



(伊勢志摩普及センター調査)

初期生育が悪く小麦による圃場の被覆が不十分だと、春先から雑草が多発します。つまり、低pH環境下では小麦の生育不良と雑草害で収量・品質に影響が生じます。

定期的に土壌診断をおこない、土壌の状況を把握して適切な土壌改良資材を投入しましょう。

〈土壌改良資材の例〉

| 資材         | 特徴  | 施用量 (kg/10a) |
|------------|---|--------------|
| 苦土石灰(マグカル) | pH矯正に効果あり                                     | 100 kg/10a   |
| 農力アップ      | ケイ酸や微量元素(苦土、マンガン)も含んでいるので、pH矯正だけでなく土づくりにも効果あり |              |

※上記は一例であり、圃場の状態によっては施用量が変わることがあります。